

女性連合・私たちのひろば

テーマ：「わたしたちのヴィジョン」

5月13日（土）10：00～11：30

司会 戸井田敦子書記 記録 大竹千賀副会長 参加者 25名

1. あいさつ：米本幹事

2. タイムスケジュール

10：00～10：40 自己紹介

10：40～11：10 ブレークルーム（6グループ）

11：10～11：25 全体の分かち合い

11：25～11：30 報告 連絡

3. 自己紹介

ふじみ野 大塚→女性会「ミスハ」から参加

福岡西部 堤千里→初めて参加。古賀の泉さんからお聞きして参加。

函館 本多依子→副会長2年目。

南名古屋 安武とも子→この前の会にも出たので何人かの方は覚えている

福岡国際 くずめよし→突然牧師が辞任して数名で教会の再建に取り組んでいる。

ふじみ野 中田由佳子→北関東の当番教会。3名も参加感謝。

宮崎 中條邦子→なるべく参加したい。参加できてうれしい。

三鷹 五島裕紀子→女性連合で会計事務。2022年度の会計監査無事終了。

ふじみ野 児玉佐代子→実行委員2年目。お声がけをしたら参加してくれてうれしい。

古賀 泉美智子→検討チームのメンバー。転換期に関わることができた感謝。

松山西 城前恭子→中四国連合の女性会の役員

多良見 松本素代美→連盟も女性連合も転換期にある。皆さんの意見、考えを聞きたい

高松太田 大竹千賀→記録を担当。

広島 寺見まゆみ→23～24年度中四国の常置委員。元奨学生林守鎮牧師就任式感謝

恵 小林八重子→中四国から多くの方が参加で嬉しい。皆さんと一緒に考えていきたい

広島 中木クミ子→女性会の会長。教会につながり皆さんと協力しながらしていきたい

広島 山田洋子→検討チームの一員。皆さんの意見やお考えを聞くのが大切。皆勤賞を頑張ろう

常盤台 山口慎子→女性連合スタッフ。転換点にあり、全国の人とつながりたい。つながりと協力をしたい

平岸 李徳京→皆さんとお会いできるのを待っていた

相浦 田中明子→実行委員2年目。女性連合、地方連合のことが詳しくなかったので参加。でもわからない。

豊橋 小笠原→教会内では女性会が開けない。他の方たちがどのようにしているかを知りたくて参加。

恵泉 瀬戸川美奈→女性会兄弟会がなくなった。みんなで世の光を読んで協力伝道に取り組む。

東京北 米本裕見子→私たちは何をしたいのかというヴィジョンに立ち帰っている。夢や希望を聞きたい

福島主のあしあと 大島玲子→どう動いてどのような方向に行こうとしているのかを簡単に説明(東北で)

西川口 戸井田敦子→牧師辞任。コロナでそれからずっと会えない。何とか礼拝を続けたいと頑張ってきた

4. 発題

新型コロナウイルス感染症拡大のため、時代の転換点を迎えているのにもかかわらず、全国の女性会の皆さんと会い、意見を分かち合う機会がなかなか持てなかった。しかし、その中でも、連盟の機構改革や財政課題などの問題に対して何とか舵を切っていかなければならない状況であった。そのような現状の中、検討チームが立ち上がって話し合いを重ねたが、課題の多さもあり手詰まりになってしまった。

役員会ではその状況を打開するため、仕切り直しをしたいと考えた。まず、女性連合が大切にしてきたものは何か、そして女性連合のヴィジョン、これからの女性連合の希望とするものは何かという原点に立ち返り、皆さんのご意見や思いをお聴きしたい。

宣教師派遣を、誇りと喜びを持って世界祈祷週間献金を捧げることで支えてきた私たちだが、宣教師派遣をしなくなったなら、私たちにはヴィジョンや理念はないのだろうか。私たちが女性連合として、世界中のジェンダー差別を受けている方たちや、日本国内、それぞれの教会の女性たちを支援するような、今までとは別の形での働きがあるのではないだろうか。そしてその根底にあるのは、コンパッションであるとする。言い換えれば、女性連合が大切にしてきた沖縄の言葉でいう、「ちむぐりさ」に似ているのではないだろうか。肝まで苦しむ、他人の苦しみを自らの痛みとして哀れんだ主イエスの姿を追いながら、日本の女性たち、そして世界の女性たちの、まだまだ虐げられている立場にある女性たちの救い、そして喜びのために何ができるのか、コンパッションをもって考えていけたらと思う。

これから私たち女性連合がどのようなヴィジョンをもって、どんなことをしていきたいのか、そして女性連合にどんなことを期待するのか、私たちの教会からこんなことだったらやっていけるといようなことを分かち合うためにブレイクアウトルームに分かれて分かち合いをしたい。

5. ブレイクアウトルームに分かれて（6グループ）

6. 全体の分かち合い

・1グループ

- ・コロナで教会や女性会に来られなくなった方々が、コロナが明けても来られない状況が続いていて、全体的に教会も女性会も疲弊しているところがあるのではないかと。内側から元気にし、力をもらえるようなことを女性連合に期待する。
- ・天城に時にはできていた少人数でのグループや、子育てを頑張っている方々のグループや、年配の方々のグループなど、話しやすいところでの活動が、教会内だけではなかなか難しいので、大きな規模でできると良いと思います。今度福岡でできると良い、そういう機会を与えられると良いと思う。
- ・それぞれの地方連合の集まり方などを聞いてみた。

・2グループ

- ・世界伝道というところでは、宣教師を送るというイメージがある中、派遣宣教師がいなくなるとどうなるのかなということもありますが、世界伝道というのはアジアの女性たちのつながりとか、女性たちとのネットワークというのも入っていると思う。福島のことだとか、プリのことだとかなどで、女性たちのネットワークの強さを感じることができたことを共有。ネットワークの強さを大切にしていきたい。
- ・教会で世界祈祷週間のアピールをするにもやはり宣教師の働きがクローズアップされることが多いけれども、私たちは日本から送るということだけではなくて、私たちが支援しているそれぞれところにおられる方々とのつながり、私たちが派遣している、宣教師を送っているという意識でささえているという

ことを以前教えられてはっとした、というお話を聞き共感した。

- ・宣教師を送ることだけではなく、独自で支援している活動もそのような思いで支え、つながっていききたいということを共有した。

・3 グループ

- ・高齢化、これからを担っていただく若い世代とのギャップ。今までのような運び方では立ち行かないというところをどうしたらよいか大きな課題。女性連合が一つとなってやってこられたのは、宣教師を派遣し支えることの誇りと祈りが平和につながっていた。だからみんなの気持ちが集まって加わりたい、加わっているのだという気持ちが持てたことから考えると、これからは、個人の意識改革である。個人が何に、心が揺れ、祈りたいと寄り添いたいと思うかだと思うので、大きな組織ですごく組織立った中でやると、自分がその一端になっているという自覚が持てない。
- ・東京と地方の温度差があると思う。女性連合で決めてくれたことはそれにそうよという教会もあるし、これはどうなっているの、あれはどうなっているのという、中心部にある教会もあるかもしれません。やはり、全部統一していくのには無理があると思う。近隣の教会とかブロックの教会とか地方連合とかで顔を合わせて、いろいろ情報交換ができたり話し合えたりというところで、「わたしはこれを祈りたい」ということを選び、祈りあいつながることが大切ではないかということ話を話した。

・4 グループ

- ・連盟に所属しているけれど、信徒活動には参加しないよ！と明言する教会も出ていて、世界祈祷は教会を上げて協力し、アピールもするしささげても行くよという教会もある。女性はいるけれど、忙しくて礼拝に参加するのが精いっぱいという、特に若い世代が増えている。実際に女性連合の会費を納める方は、各女性の中の1/3くらい。
- ・教会を建て直している最中で、礼拝は本当に少数の日本人とその地域に観光に来られる外国人観光客が立ち寄るような礼拝をささげている、その日本人の教会員の方は、ホストとなってその方々をおもてなししているような状態。自分が教会で恵まれようと思う人は離れていってしまう。自分がホストとしてささげると、自分が受けるのではなく与えるのだという人が、今自分の教会に残っている。自分で絵をかくのはやめた。決めるのは神さまなのだから、そのあとに従っていこうというふうにした。女性連合もそれが大事なのだというふうに変更された。

・5 グループ

- ・修繕のためのバザーを始めた。修繕のために手芸の会が立ちあがり、教会に出るまでもないけど教会につながった方々がいる。
- ・バザーなどを世界祈祷週間のためにとやってきたけれども、何か目的のために団結するというのは、力が発揮できる場所だったと話した。
- ・教会の周辺に外国籍の方々がたくさんおられるということを知っていることを考えています。私たちが考えている以上に日本に住んで働いている多国籍の方がたくさんいる、その中で何か教会ができることがあるんじゃないかということが、女性連合の国際宣教につながることはあるのではないかと確認した。ネットワークというのが、やはりとても大切なことかなと思います。派遣するのではなくて、互いにというような形で、連盟は派遣の宣教師がいなくなりますが、今までやってきた女性連合のそれぞれの活動、献金先ともっともっとつながって豊かになっていくと宣教のやり方がクリアーになっ

てくるかなと思った。

・6 グループ

- ・女性連合の財政の行き詰まりと世界伝道、今までやってきたことがこれから変わっていくだろうということを中心に話した。特に世界伝道の話では今まで連盟に依存したやり方、すなわち献金を集めて献金を渡すことをしてきたがこれからは変わっていくでしょうし、変わっていきたいです。教会に日本人だけでなく多国籍の方々と一緒に礼拝を守っています。生活も一緒にその地域でしています。やはりこれが国内の宣教という国内に目を向けていく、今までは国外に宣教師を出すことに一生懸命になっていたけれども国内に目を向けていく、それはすなわち多国籍の方々と共に礼拝をし、生活をしていくということに目を向けていきたい。今実際にそのような形でしている。
- ・ヴィジョンについて、ヴィジョンというのは一言で分かりやすいのが良い。
トヨタ自動車のミッションがわかりやすいし感激した。ヴィジョンというのはみんなが共有できて、わかりやすいもので、特に共感できるのもでなければヴィジョンとして成り立たないという話をした。ここはもっと深めたいと思いました。わくわくする、人の心を動かすヴィジョンを考えていきたい。
- ・財政については、なくなるという話をお聞きしますが、会費の集め方を紹介して下さった。教会の統一会計の予算の中に女性会の女性連合に送る会費も予算化されている。
- ・若い方々に一緒に参加してもらえるように巻き込んでいくことが一つの課題です。

7. 報告 ご案内 米本幹事

- ・ホームページに感想などをお寄せいただけたらと思います。

8. 折り 戸井田敦子書記

〈ご参考まで〉

トヨタ自動車のミッション

- わたしたちは、幸せを量産する。
- だから、ひとの幸せについて深く考える
- だから、より良いものをより安くつくる。
- だから、1秒1円にこだわる。
- だから、くふうと努力を惜しまない。
- だから、常識と過去にとらわれない。
- だから、この仕事は限りなくひろがっていく。